

英国からの湿地再興アドバイザーを招聘して――

文・写真

加賀まゆみ（夢洲生きもの調査グループ）



写真-1 日本野鳥の会の納家大阪支部長の案内で、共生の森を視察するジェフ氏

今年の4月、いつまでも寒かった。桜は10日を過ぎてもまだ咲いており、万博開幕で予測不能な交通事情の大阪に、私たちは海外からの賓客を受け入れるという初体験をした。それは、「都市と自然548号」で紹介した英国王立鳥類保護協会（RSPB）のニコラさんのこんな提案から始まった。「自分の同僚が湿地再興のアドバイザーとして韓国に仕事で来るので、韓国からの往復旅費と宿泊代だけ負担してくれたら、ついでに日本まで足を延ばすことが可能。そして大阪湾岸の状態を見てもらったらどう?」。これは、またとないチャンス!というわけで招聘したのが、今回のお客様のジェフ・キュー氏である。

ジェフ氏はどんな人物なのか、オンラインで顔合わせもできないまま、予約したホテルで待ち合わせた。旅費精算と事前説明のためだが通訳はいない。時間前に現れた欧米人にジェフ?と聞くと、彼は私にチョコレートの箱をポンと渡し、会うのを楽しみにしていたよ、よろしく!と満面の笑顔。いい人そうであった!そして身長およそ2メートル?!ダブルベッドルームを予約しておいてよかった!

1日目、午前中に新島フェニックスへの調査に乗船。そろそろコアジサ

シコロニーができてもいい時期だが、まだ二十数羽だけだったとのこと。昼に南港野鳥園に移りランチ。その後、私たちの活動や南港野鳥園・夢洲の状況の説明をしたのち、南港野鳥園の北観察所へ。この時、ニコラさんから連絡をうけた新任の英国領事マイケル・プライス氏もジェフ氏に会いに来ていて、説明や見学に同行。マイケル氏は日本語が堪能で、大阪や夢洲の事情もよくご存じで、細かなことまでジェフ氏に補足説明をしてくださった。またジェフ氏は私たちの共同宣言のことなど、ニコラさんからシェアしていた情報も簡潔に紹介してくださり、和やかな時間をともに過ごした。そしてマイケル氏は野鳥保護についてできることがあれば協力するし、国際シンポジウムをする場合は喜んで参加します、と言ってくださった。

夕方からは、平林の貯木場を見学したあと、野鳥の会会員さんの珈琲店で、英国の干潟再生の記録映像などを見せていただき、会員120万人を有する世界最大の自然保護団体の活動規模に圧倒された。干潟再生計画などを成功させる秘訣は?と聞いたら、「まずは不可能だと絶対にあきらめないこと。2つ目はお金を集めてくること。そして3つ目は、伝統的な方法から最新式の技術まで全部の中からコストや効果の最



写真-2 南港野鳥園での説明会で話し合うジェフ氏(左)とマイケル英国領事。後方は通訳の山岡さん



写真-3 北観測所で説明する高田さんと納家大阪支部長を囲んで



写真-4 南港野鳥園で説明を受けるマイケル英国領事(左)とジェフ氏



写真-5 かもめコーヒーでRSPBの活動を紹介するジェフ氏



写真-6 昼食に立ち寄ったSAでカメラマンにインタビューを受けるジェフ氏



写真-7 強風の中、男里川河口を視察

適な組み合わせを選ぶ」と。そして広大な牧草地を湿地に改良している動画をみていたとき、土地所有者はだれ?と聞いたら、土地は私たちRSPBのもの。購入した!と。全員ため息…。

2日目は、大阪湾岸の堺以南でシギ・チドリ類が見られる干潟・湿地回復候補地を車でめぐる。案内役の納家氏(日本野鳥の会大阪支部長)運転の車には、ジェフさん、通訳をしてくださる元英語の先生、記録カメラマン。私の運転する2台めの車には、保全協会の新しい事務員武内さんを研修として受け入れ、垣井さんと一緒に乗り込んだ。

この日は朝9時から、堺浜、7-3区共生の森、泉大津SA(ハヤブサ営巣)、男里川、阪南2区、岸和田貯木場、大津川と駆け回った。台風並みの強風で、大阪北部ではあられまで降ったようだったが、私たちは不思議と雨に降られることなく、予定ポイントをうまく回ることができた。野鳥はあまり見られなかった。野鳥がたくさん出ていたら、とてもこの時間

で回り切れなかっただろう。

この2日間、かなり過密なスケジュールだった。ジェフ氏は各地で「ジャストタイム!」と時間に正確な日本らしさを楽しんでいた。が、ほんとうに寒くて、彼は風邪をひいたのか途中から声が出なくなってしまった。それでも夜は参加者全員で堺の居酒屋にいき、日本の旬の味で打ち上げをするという、濃密な2日間だった。

その後のメールで、「驚くべきことに、大阪湾岸にはどんなに小さな水辺でも、東アジア・オーストラリア・フライウェイの主要な種が来ている。生息地の再生は、技術的に可能だが、そのためには経済力や社会政策も必要。地元の人々のエネルギーと情熱が、野鳥生息地の保護の重要性を住民や意思決定者に伝える上で、大きな役割を果たすと思う」と私たちにエールを送ってきてくれた。

今回の視察は、今後私たちが国や地方行政にものを言っていく場合の力強い味方になってくれるだろう。まだわずかな一歩に過ぎないが、「(あまりに

国際的な潮流からかけ離れた日本の)ネイチャーポジティブをこの大阪湾岸から!」を心に、次の一歩を進めたい。

2019年から夢洲の調査を開始して、この創出された自然を残すためにはどうしたらいいか、考え続けてきた。そして国際的な意見で支援をもらう(つまり外圧)以外もう手立てはないと思うこともあった。

しかし最近おもしろい話が舞い込んできた。夢洲のトイレを設計した若手建築家グループから、東京乃木坂「TOTOギャラリー・間」での展示会で協力してほしいとのオファーが来たのである。彼らは「夢洲の庭」というトイレ1を万博に作った。その構想の情報源は私たちのホームページだったそう。人間の未来社会ばかりが目につく万博だが、出展者のなかにもこんな人たちがいるのか!と驚く。詳細はまだわからないが、彼らのような若い世代の感性につながっていくことは、希望そのもの。今は、いろんな出会いに感謝しつつ、機が熟すまで、私たちにできることを一歩ずつ一歩ずつ…。